

水邊沙地ニ多ク叢生ス、春舊根ヨリ先ヅ花ヲ生ズ、莖高數寸梢ニ花アリ、筆頭ノ形ノ如シ、故ニ筆頭菜ト名ク、慶陽府志ニ見タリ、花ノ名ヲフデツグサ古歌フデツグバナ同上ト云、今ハツクヅクシト云、ツクシ東國ホウシコ豫州ホウシ雲州ツクシ和州ホシコ讀州嫩時二三寸ナルヲ早春食用ニス、今ハ冬ノ中ヨリ出ス、花終テ葉出ヅ、是スギナ也、形イヌドクサニ似テ細ク短クシテ八九寸、節ゴトニ細枝簇生ス、是モ嫩ナルトキ食ベシ、此根黑色土ニ入ルコト甚深クシテ、本根ハ堀リ得ガタシ、

〔源氏物語四十八〕あざりのもとより、年あらたまりては、なにことかおはしますらん、御いのりはたゆみなくつかうまつり侍り、今はひと所の御ことをなんやすからすねんじきこえさするなと聞えて、わらびつくくしおかしきこにいられて、これはわらはべのくやうじて侍る、はつほ成とて奉れり、

〔夫木和歌抄二十〕眞應三年百首草

民部卿爲家

さほひめのふでかとぞみるつくくし雪かきわくる春のけしきは

〔宣胤卿記〕文明十二年二月十三日甲子、橋本羽林相伴、行河原取土筆中略、今日於河東令切荆、指東北堀上、橋本羽林來、夕喰土筆賞翫之、

〔殿中申次記〕正月八日

同○永正十三一折○中略若王子例年進上之

〔藝備國郡志上〕安藝土產、大芝土筆、中華書未見其名、其形似筆、故名之、春末生矣、湯燻之、合醬食、又作

羹可也、大芝屬佐東郡、

〔倭名類聚抄二十〕蘿、唐韻云、蘿魯何反、日本紀私女蘿也、

〔箋注倭名類聚抄十〕蘿見神代紀上、訓注云、蘿此云比舸礙、古語拾遺、蘿葛比可氣、齋宮式作日蔭、按、

是草可作鬢翳、日影故云日蔭○中本草和名云、松蘿、一名女蘿、本條、一名蔦蘿、一名蔓蘿、一名蔓女